

Joint Education Program（韓国外国語大学校ポーランド学科）報告

平成 31 年 3 月 13 日～20 日（8 日間）

韓国外国語大学校ポーランド学科（Hankuk University of Foreign Studies, Department of Polish Studies）への短期海外留学（SV）に引率教員として同行した。本学の参加学生による評価も高く、今回で第 3 回目となった。本学でポーランド語を専攻する学生が韓国外大ポーランド学科の授業に参加することにより、ポーランド語を通じた日本と韓国の学生の活発な交流を Joint Education Program として実現することが主な目的である。

実施期間中、本学からの参加学生は同ポーランド学科に所属するポーランド人教員（Joanna Przyklenk 客員教授、Emilia Szalkowska 講師）による学部学生用の授業（「講義」「演習」）や同学科主催の課外活動に出席した。休日には、同学科学生のポーランド語ガイドによるソウル市内見学のエクスカージョンにも参加した。さらに 3 月 14 日に、駐韓ポーランド共和国大使館の Piotr Ostaszewski 大使を表敬訪問する機会も得た。

日本と韓国という、歴史的・政治的に互いに複雑な問題を抱える両国の若者が、ポーランド語という「中立の言語」により国境を超えた、利害がすれ違うことのない、純粋な交流を実現できる稀有な機会を生み出すことができた。従来の二国間交流とは原理も方式も大きく異なる、新鮮味ある、多極的で一步進んだユニークな国際交流を展開することができ、本学におけるポーランド語の Joint Education Program としての重要な成果の一つといえるであろう。

同学科代表の Choi Sung Eun 教授からは、今回で 3 回目の実施となり、すでに「伝統」となっているので、今後ともぜひ継続してほしいとの期待が寄せられた。非常に斬新な企画で、双方の学生にとって大きな刺激となり、モチベーションの向上にもつながるといって評価を再び受けることができた。さらに同学科の学生からも、本学のポーランド語専攻への留学を希望する声が出始めていることから、今後は韓国外大側も本学への学生派遣を始めたいとの提案があった。韓国外大側からの学生の受け入れも実現することによって、双方向での一層活発な交流が期待される。

学生の専攻分野とは全く異なる言語文化圏への留学であるため、当面引率教員による運営サポートが必要であるが、将来的には双方の強固な信頼関係を構築し、引率なしで安心して派遣できるような道筋を立てることにより、よりスムーズな交流制度を整えていくことが望まれる。

平成 31 年 3 月 25 日
大学院総合国際学研究院
森田耕司



授業後の Joanna Przyklenk 客員教授を交えた記念写真



Joanna Przyklenk 客員教授の授業に参加している韓国外大と本学の学生



Emilia Szalkowska 講師の授業に参加している韓国外大と本学の学生



Piotr Ostaszewski 駐韓ポーランド共和国大使を表敬訪問した本学の学生



韓国外大ポーランド学科代表 Choi Sung Eun 教授と本学の学生



ポーランド学科がある韓国外大グローバル（龍仁）キャンパス